

「安全あんしん」のまちづくり

～ 京田辺市の危機管理政策を考える ～

同志社大学政策学部 真山ゼミ

問題の本質を探る

諺曰く「災害は忘れたところにやってくる」

京田辺市の実情

「災害は記憶のないところにやってくる」

市民の中での災害に対する意識が低い

根拠のない安心感・災害に対する無防備状態

実際に市民に聴いてみました

❖京田辺各地でアンケートを実施

京田辺市で起こりうると考える自然災害

1. 地震 (60%) 2. 何もない (16%)
3. 洪水 (14%) 4. その他 (10%)

それら自然災害に対する対策をしているか。

YES (20%) NO (80%)

市民の防災への備え

自主防災組織のリーダーに聞いてみました

❖ 一般市民の意識

大多数は自らに関わる問題だと思っているが、具体的には何もしていない

❖ 自主防災組織の実情

一部のリーダーは熱心だが、皆がついてきているとは言えない

既存の自治会と自主防災組織の関係が整理できていない

行政の防災体制

市役所「安心まちづくり室」で聞いてみました

❖ 組織体制の特徴

市長直轄の組織として昨年7月に作られた
多部署に渡っていた公務を統括

❖ 災害時の体制

危機対応時の中心となり、対策会議の事
務局となる

安心まちづくり室長は災害本部設置時の
副本部長として最前線に立つ

現状の問題点

- ❖ **行政が大災害に対応することの限界**
交通網の麻痺によって即座の対応が困難
初動体制においては住民の自助共助が不可欠
- ❖ **住民の共助体制の未整備**
コミュニティ内のつながりの希薄化
* 特に北部の新興地域

政策提言

問題解決のための方策

- ❖ 1、大学の協力によるコミュニティ内のつながりの強化、またそのリーダーの養成
 - ・ 目的は団塊の世代の自主防災組織への参加促進
 - ・ 京田辺市と同志社大学の提携による講座の開設
 - ・ 講座により終了時には資格試験を設け、資格取得時にはその分野において自治会長と同じ権限を付与される
 - ・ 「防災アドバイザー」「観光スペシャリスト」の養成講座、「農業入門」等の開設が考えられる

政策提言

問題解決のための方策

❖ 2、危機管理コンペ時の評価材料

❖ 評価に用いる調査項目

- ・防災イベントへの参加率
- ・防災用具の準備率
- ・マニュアルの充実度
- ・住民の意識
- ・自治体の救命用具の充実度
- ・オリジナリティ

政策提言

問題解決のための方策

❖ 3、同志社大学生の防災ボランティア活動の確立

- ・同志社大学に防災サークルを設立
- ・活動例 非常食を用いたレシピを公募。最優秀賞は、防災訓練の炊き出しなどで使う。
- ・活動例 学園祭や出張防災教室で「安心まちづくり室」と協力し、ブースなどでイベントを行う。

例)地震体験装置、防災ハザードマップ

政策提言

問題解決のための方策

- ❖ **団塊世代の活躍の場としての防災**
大学協力も含めたコミュニティ強化の為のリーダー養成等の提案
- ❖ **競争原理を用いた危機管理コンペ**
各世帯の災害準備態勢の強化
コミュニティへの帰属意識の向上
- ❖ **同志社大生の防災ボランティア活動の確立**
防災サークルの設置による公助不足分の補助